はしがき

■ **編集の趣旨**

巷間をにぎわした、改訂「学習指導要領」による新教科書で学ぶ高校生・受験生用として、期待される**発展**学習に応えるべく、小社では新しい『**発展30日完成シリーズ**』を企画し、順次刊行してまいります。

編集にあたっては、小社版薄物シリーズの長所はすべて採り入れ、良問の精選と、詳しくて誰にでもわかる解答を心掛けました。

本書は、このシリーズの一冊として、古文読解の基礎力を養うことを目指して作成しました。高校一年生を主な対象としましたが、基礎を確実に身につけたいと考える二年生以上にも適します。

■ **本書の特長**

1　書名にあるとおり、三十日間、毎日一つの小テーマについて練習を積み重ねると、古文読解の基礎的な知識が一通り学習できるように工夫してあります。

2　大きなテーマの流れは、次のようになっています。

① **古文入門的な事項**（かなづかい・用言の活用・係り結び等）

② **基本単語の学習**（自立語中心）

③ **表現の型の学習**（助動詞・助詞中心）

④ **敬語法・修辞法の学習**

3　古文読解の上で最も基礎的な知識は、「**単語**」と「**文法**」なので、前項①の用言の活用・係り結びなどの知識が身に付いたら、②単語、③表現の型をくり返し学習するとよいでしょう。

4　上段に、「**今日の学習**」としてその日の学習事項を整理してまとめてあります。この部分は、**最終的には記憶すべき事項**と考えてください。

5　下段には、典型的な**短文による練習問題**を配しました。これを解くことで、上段で学んだ知識を確認します。

6　前記四つの大テーマのまとまりごとに、**総合演習問題**を付けました。ここで、全体的な知識の確認をしましょう。

7　「**別冊解答書**」には、自学自習でも十分理解が行き届くよう、「**解答**」の他に、具体的な解法を示した詳しい「**解説**」と問題文すべての「**品詞分解**」「**口語訳**」を付けました。特に「解説」には、本冊で触れられなかった「**重要知識**」に言及しているところがありますので、ぜひ熟読してください。

本書によって、諸君に古文読解の基礎力が確実に身に付くことを期待しています。

編著者

《目　次》

第1日　古文と現代文……4
第2日　五十音図と歴史的かなづかい……6
第3日　品詞分類と活用形のはたらき……8
第4日　動詞の活用（1）……10
第5日　動詞の活用（2）……12
第6日　形容詞・形容動詞の活用……14
第7日　係り結びの法則……16
第8日　総合演習（1）……18
第9日　基本単語（1）　動　詞……20
第10日　基本単語（2）　形容詞・形容動詞(1)……22
第11日　基本単語（3）　形容詞・形容動詞(2)……24
第12日　基本単語（4）　名　詞……26
第13日　基本単語（5）　副　詞……28
第14日　基本単語（6）　連語・慣用句……30
第15日　古典常識……32
第16日　総合演習（2）……34
第17日　断定・打消の表現……36
第18日　過去・完了の表現……38
第19日　推量・意志の表現……40
第20日　受身・使役の表現……42
第21日　順接・逆接、仮定・確定の表現……44
第22日　疑問・反語の表現……46
第23日　願望・禁止の表現……48
第24日　感動・詠嘆、強意の表現……50
第25日　総合演習（3）……52
第26日　敬語の種類……54
第27日　主な尊敬語・謙譲語・丁寧語……56
第28日　注意すべき敬語……58
第29日　和歌の修辞法……60
第30日　総合演習（4）……62

第1日

古文と現代文

□月□日□曜日

今日の学習

高校で学ぶ国語は、上代（奈良時代）から近世（江戸時代）までのものを**古典**（古文）、近代（明治以降）のものを**現代文**と便宜的に分けています。

古文と現代文とでは日本語として共通する点が多いのは当然ですが、目に付く違いもあります。

1 古文と現代文との主な違い

① かなづかい

現代文はふつう現代かなづかいで書かれるが、古文では歴史的かなづかいが用いられている。

歴史的かなづかいは、平安時代中期以前の古典に基準をおいたかなづかいである。

例 言ふ（言う）　いづれ（いずれ）

② 単語

1 古文には、現在では一般に用いられなくなった語（熟語も含め）がある。

例 前栽（せんざい）　いみじ　えならぬ

2 古文には、現代語と同じかたちであっても、意味の異なる語がある。

例 かたち（容貌（ようぼう））　おどろく（目を覚ます）　うつくし（かわいい）

1 次の各語は、歴史的かなづかいで書かれています。それぞれ現代かなづかいに書き改めなさい。〈1点×6〉

(1) いは（岩）　□　(2) おもふ（思ふ）　□

(3) はぢ（恥）　□　(4) いづれ　□

(5) ゐなか（田舎）　□　(6) ゑがほ（笑顔）　□

2 次の各語についてそれぞれ意味を答えなさい。分からないものについては、古語辞典を引いて調べなさい。〈2点×8〉

(1) ついたち　□

(2) つごもり　□

(3) ひねもす　□

(4) よもすがら　□

(5) こしかた　□

(6) ゆくすゑ　□

(7) ありあけ　□

(8) ゆふづくよ　□

20分

／50点

③ 文法

1 **用言（動詞・形容詞・形容動詞）・助動詞の活用**のしかたに大きな違いがある。

例 現代語の「落ちる」＝タ行上一段活用
古語の「落つ」　＝タ行上二段活用

落ちる	ち	ち	ちる	ちる	ちれ	ちろ
落つ	ち	ち	つ	つる	つれ	ちよ

2 古文の**助動詞**には、現在では用いられなくなったものが多い。

例 けり（た）　なり（である）

3 古文には特定の助詞について**「係り結び」**というきまりがある。（→第7日）

例 花ぞ咲きける。（係りの助詞「ぞ」を用いたので、「ける」と連体形で文を結んでいる。）

4 古文では、**助詞が省略**されているように見える文が多い。

例 花咲き、鳥歌ふ。
（花が咲き、鳥が歌う。）

5 古文では、連体形の下に**「の」や体言（名詞）が省略**されているように見える表現が多い。

例 言ふは易く、行ふは難（かた）し。
（言うのは易しいが、実行することは難しい。）

3 動詞を古語辞典で引く場合、基本形（＝終止形）に戻す必要があります。現代語のとき「―る」で終わる動詞はたいてい、「る」を除きその前のかなをウ段音に直すことで基本形に戻せます。

例にならって、次の各動詞を古語の基本形に改めなさい。〈2点×10〉

例 落ちる → 落つ　改める → 改む

(1) 起きる　□　(2) 過ぎる　□

(3) 寄せる　□　(4) 眺める　□

(5) 滅びる　□　(6) 下りる　□

(7) 捨てる　□　(8) 別れる　□

(9) 報いる　□　(10) 尋ねる　□

4 形容詞を古語辞典で引く場合も、基本形に戻す必要があります。現代語のとき、「―しい」で終わる形容詞は「い」を除き、また「―い」で終わる形容詞はその「い」を「し」に直すことで基本形に戻せます。

例にならって、次の各形容詞を古語の基本形に改めなさい。〈2点×4〉

例 かなしい → かなし　高い → 高し

(1) 少ない　□　(2) ゆかしい　□

(3) めでたい　□　(4) うつくしい　□